

特定非営利活動法人神奈川県認定
柔道教育ソリダリティー

第18回講演会

神様からの贈り物」

細川 佳代子

NPO法人勇氣の翼インクルージョン

理事長

(公財) スペシャルオリンピックス日本

名誉会長

2017年12月14日(木)

東海大学校友会館(富士の間)

開会の挨拶

光本恵子事務局長

NPO法人柔道教育ソリダリティー第18回講演会を開催いたしました。私、本法人の事務局長をしております。光本恵子と申します。今日はどうぞよろしくお願いたします。皆様には師走の大変お忙しい中、沢山の方にお集まりをいただきまして、心から感謝を申し上げます。それでは、講演に先立ちまして、本法人理事長の山下泰裕より、ご挨拶させていただきます。

山下泰裕理事長 こんにちは、本日は大変ご多用のところ、柔道教育ソリダリティーの第18回目の講演会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。



講演会も今回で18回目を数えます。11年前のこの12月に、第1回目の講演会を開いたことが思い起こされます。

第1回目には、当時、日本経済団体連合会の会長であられた奥田碩さんから、ご講演をいただきました。それから11年間、多くの会員の皆様、そしてご支援いただく協賛企業の皆様のお力で、我々のNPO法人も様々な活動を展開して参りました。

今年も、海外へのリサイクル柔道着や畳の支給、海外への指導者の派遣、海外からの柔道指導者や選手を受け入れ、こういった活動を展開できております。

また、8年目になりますが、今年も世界各国から柔道指導者を招聘し、コーチングセミナーを開催いたしました。

後ほどご紹介をさせていただきますが、イスラエルやパレスチナをはじめ、7カ国から8名の指導者の方々が来日され、一生懸命勉強をされました。

今回のセミナーは、今日が最終日です。講演会終了後、修了書の贈呈式を行わせていただきます。

2017年活動報告

そして、話は変わりますが、今年も隣国の中国、あるいはロシアとの交流を活発に展開することができました。今年が日中国交正常化45周年ということ、10月には、本法人が中心となり、外務省の支援で立ち上げた日中友好南京柔道館で、全日本男子の井上康生監督に柔道の指導を行っていただきました。その盛況ぶりには井上監督も驚かれ、その様子がNHKの「ニュースウォッチ9」でも大きく報道されておりました。

そして、私も11月に中国の青島に行つてまいりました。同じく本法人が中心となって設立した日中友好青島柔道館が開館10周年を迎え、それを記念した第1回日本総領事杯青島

国際柔道大会が開催され、こちらに参加してきたというわけです。

次に、ロシアとの交流活動についてご報告いたします。今から100年前に、北海道の柔道家がウラジオストクを訪問して柔道の交流親善試合を行いました。これが、柔道では最初の国際親善大会ではなかったかと考えております。

そこで、この100周年を記念して、20歳以下の男女を対象としたジュニア国際親善試合を9月にウラジオストクで開催されました。この大会は、同市で開催された「東方経済フォーラム2017」の会期に合わせて実施され、ロシアのウラジミール・プーチン大統領、モンゴルのハルトマーギーン・バトトルガ大統領、そして安倍晋三首相もご参列されました。実は、プーチン大統領だけではなく、モンゴルの大統領も柔道家で、モンゴル柔道連盟の会長も務めておられます。

今年の東方経済フォーラムも多くの国々から首脳や高官が集まり開催されました。しかし、会場となった極東連邦大学には、残念ながら柔道場がありませんでした。

私が副学長を務める東海大学は、この極東連邦大学と学術交流協定を締結し、様々な協働活動を展開して

います。そこで東海大学と本法人で協力し、柔道場をプレゼントしました。今年の10月、極東連邦大学でも柔道の活動が始まりましたので、本法人で師範として柔道指導に携わっており、光本健次先生が中心となり、本法人のロシア交流担当である浅井信幸氏と現地に赴いていただきました。日本とウラジオストクとの間で、これから新しい柔道交流が展開されていくのではないかと考えております。

これらのような草の根の活動を展開できておりますのは、ひとえに会員の方々のご支援の賜物であります。改めて心から感謝を申し上げます。

細川佳代子さんと

スペシャルオリンピックス

さて、今日は、細川佳代子さんにご講演をいただきます。皆様ご存知のとおり、私は熊本県の出身です。細川佳代子さんの夫であらせられる細川護熙さんは、日本の元首相であり、長く熊本県知事を勤められた方です。そういうご縁もありまして、細川佳代子さんとも長くお付き合いをさせていただいております。

もう20年ほど前になるでしょうか、細川佳代子さんから「お会いし

て、ご相談したいことがあります」というお電話がかかってまいりました。

「スペシャルオリンピックスという、スポーツを通じた知的障害者の支援活動を日本でも起こしたい、それを広めて行きたいので賛同してもらえませんか」というお話でした。細川家は、熊本・細川藩のお殿様であり、細川護熙さんも佳代子さんも、とても親しみのある方々です。私には「NO」とは言えませんでした。

「何もお役に立てませんが、私のような者でよろしければ」とお引き受けしたことが、ついこの間のようないきなりあります。以来、細川佳代子さんは、スペシャルオリンピックス以外にも障害がある方々を支援する様々な活動を、沢山のの方々に関わり、一緒に行動することを大切にしながら、とてもアグレッシブに展開してこられました。

全日本柔道連盟が始まった

新しい取り組み

私は、今年の6月に全日本柔道連盟の会長に就任しました。私は以前から、21世紀をより良くするために、女性がもっと活躍できる社会に

した。細川佳代子さんは、まさしくそれを体現される方でありました。全日本柔道連盟も日本の柔道界も、女性がもっと活躍できる組織となるべく、皆で取り組んでいるところです。

そしてもうひとつ、全日本柔道連盟では2年前から、NPO法人日本視覚障害者柔道連盟を加盟団体として様々な支援活動を展開しております。さらに先日全日本柔道連盟の理事会では、2018年1月から全日本柔道連盟の中に知的障害者柔道振興部会を立ち上げることを承認いたしました。

中里壮也専務理事と私の間では、出来れば2018年に、全日本柔道連盟として第1回目の知的障害者の柔道大会を、スペシャルオリンピックス、あるいは講道館と共催でやりたいという計画を持っております。

これは「1番」を決める大会ではありません。「勝つ喜び」や「負ける悔しさ」を感じるだけではなく、試合を通してお互いの友情を育む場を提供したいと思っております。

今、我々の活動が様々なところに影響を及ぼし、色々な環境に変化を促し、本来あるべき姿に回帰するお手伝いができているのかなと感じているところです。

そして、本法人の理事長としても、

また全日本柔道連盟の会長、さらには東海大学の副学長としても、社会貢献や国際貢献の視点を大切にしながら、頑張っ行ってきたいと思っております。

少々長くなりましたが、私のご挨拶を終わりたいと思います。今日は本当にありがとうございました。光本 それでは早速ではございますが、細川佳代子さんに、お話を頂戴したいと思っております。

神様からの贈り物

細川佳代子



皆さま今晚は、細川佳代子でございます。山下さんの素晴らしいお話をもっと伺いたい、私が出る幕ではないなと思いつながら、この場に立たせていただいております。

今、山下さんのお話の中にもございましたが、私は「スペシャルオリンピックス」に関わる活動をしており、皆さまにお答えいただきましたのですが、「スペシャルオリンピックスを知っていた」という方、「どんな活動をしているのかを知っている」という方は、手を挙げていただけませんか？

ありがとうございます。かなり多くの方に手を挙げていただきました。それでも会場の半分にもなっていません。三分の一ぐらいですね。全員が「知っている」という雰囲気ではありません。

今日は、柔道関係者の方がお集まりの会合ですので、知ってくださいっている方が多い方です。残念ながら、一般の方を前にお話するときには、「知っている」という方の割合はもっと低くなります。

スペシャルオリンピックス 立ち上げまで

私は、スペシャルオリンピックスと25年前に出会い、ほとんど誰も知らないスペシャルオリンピックスをゼロから立ち上げる活動を始めました。

なぜ始めたのか、というお話をさせていただきますと、ある言葉に感

動したことがきっかけです。その言葉は、「どんなに医学が進歩しても、人間が生まれ続ける限り、人口の2%前後は知的障害の子どもが生まれてくる。それはなぜかというところ、その子の周りにいる人たちに優しさ、思いやり、人間にとって一番大切な心を教えるために、神様が私たちに届けてくださった、神様からの贈り物だからである。本来、この人たちはすごい能力を秘めて生まれてきている」という、ある神父様の言葉です。

知的障害のある方々は、自分のことを話すのが苦手な人たちです。ですから、彼らが黙っていればそれで終わってしまう。知的障害の人たちは、世間から「何もできない可哀想な人たち」で片付けられてしまっ、それ以上は進まないのが日本の実態だったと思います。

私も「可哀想に」、「神様はなんて不平等なのだろう」、「どうしてこういう人が生まれてくるのだろう」、「神様はけしからん」と思っていたのです。

でも、神父様からのこのお話を聞いたとき、びっくりして「今までの考えと逆だ」と思いました。「私たちがのために、届けてくださった贈り物だ」と。それを「何もできない人た

ちだ」と思いこんで、何もさせない。ただ守る。最悪の場合は、家族が隠してしまおうという現状も、今から20〜30年前はありました。話を聞くまでも私もそうだったのです。

私の夫は政治家で、私も色々な会合に引っぱり出されます。その中で、知的障害者を持つたお母さんたちより心情を聞く機会がありました。

そういう場では、「可哀想な子どもたちが、生涯を安心して生きていけるような施設を作って欲しい」というお願いが来ます。「私たちが死んだらこの子どもたちはどうするのでしょうか」、「こういう人たちが安心して住める施設を、日本は遅れているからぜひもつと作ってほしい」と。

このようなお話を聞いて、当時の私は、「本当ですか、大変ですね。何もお手伝い出来ませんが、少しでも夫が応援できるように、夫には話してみます」と話をしていました。そして話しを聞く度に、「神様はなんて不公平なのだろう。こんな風に差をつけるなんて、運が悪かったのかな」と思い、「うちの子供たち3人は無事でよかったです」とさえ思っていました。

口では「可哀想に」とお母さんたちを慰めていましたが、他に何をすることもなく終わっていたのです。で

も、「神様からの贈り物だ」という話を聞いて、私の人生はひっくり返りました。「私はなんと愚かな人間だったのでしょうか。この世に生まれてこないでいい人間なんていない。みんな意味があつて、役目があつてこの世に生まれているのだ。誰一人、不幸になるために生まれてくる人間はいないのだ」と確信したのです。

そして、「よし、私はこの人たちがこの社会で幸せになれるために、少しでもお手伝いをしよう」と考えました。

きっかけとなった ともちゃんとの出会い

でも、何をしていたのかわかりません。ただ、ちょうど運良く、熊本新聞に載っていたある記事に目をとめました。そこには、10歳のダウン症の女の子が、銀メダルを持って、ニコツと笑った大きな写真が掲載されていました。

私は、「ダウン症の小さな女の子が世界大会で銀メダル、すごい！」と思い、新聞の記事を読み進めました。「このオリンピックスは、最後までベストを尽くして戦った人はみんな表彰される」と書いてありました。「そんなオリンピックス聞いたことがない」と思い、(新聞に載っている)

ともちちゃんとお母さんに会ってみたいと思いました。

お母さんと話をすると、そのオリンピックは、スペシャルオリンピックと言うこと。ともちちゃんを教えたのは、中村さんという女性で、体操の先生をしていた方と教えてくれました。

私は、たくさんの人を集めて色々なことをやっているのですが、そこに、ともちちゃんを育てた中村コーチをお招きして、どうやってそのような素晴らしい活動をしたのかを伺いました。その中で、スペシャルオリンピックでは、すべての人が表彰されるということを知りました。

出場したきっかけは、「とにかくあまり参加する人がいないから、親御さんの承諾があるのなら、来てください」という話からだったそうです。お母さんも、よくわからないまま行かれたようです。

大会では、名前を呼ばれたら会場に降りていくはずだったのですが、ともちちゃんは耳も聞こえなかったので呼ばれてもわからない。コーチたちは大騒ぎして「出てらっしゃい！」って叫ぶのですが、わからないわけですよ。

ともちちゃんは3回名前を呼ばれた後も「ぼーっ」としていたので、

ボランテアの人が「出なさい、行きなさい」と勧めたそうなのですが、「イヤだ」と断ってしまった。次の人へ順番が回ってしまったのです。お母さんやコーチはショックで、「終わった！」とがっかりしたそうです。

お母さんは、「何のためにともちは、熊本からこんな遠くの外国まで来たのだろう」と思ったそうです。コーチもがっかりして、みんなションボリとしていたということでした。

仕方が無いのでお母さんが荷物をもとめて帰ろうとしたら、「だめですよ。ともちちゃん、もう一度できますから頑張りなさい」と、スタッフの人が声をかけてきたのだそうです。

「いいのですか？」と返したら、「一等賞は無理だけれど、もう一度チャンスを上げるから、がんばりましょう」と言ってくれたそうです。

それで、ともちちゃんは、呼ばれて二回目、体操の演技をすることができたのです。

コーチやお母さんたちは、「特別にやってもらったのだから、表彰式には出してもらえないだろう」と思っていたのですが、表彰式の音楽が鳴り始めたから、ともちちゃんが一番前で胸を張って出てきたのです。

「どうして、ともちちゃんがいる

のだろう」と、皆で見えていたら、8番目の「ビリ」のところに、ともちちゃんは立たせてもらったそうです。そして、ともちちゃんは特別努力賞（銀メダル）をもらいました。お母さんとコーチは、「もうだめだ」と思っていたのに、出場でき、努力賞までいただいた。それはもうとても喜ばれたそうです。

私はその話を聞いて、こんなにステキなオリンピックが世の中にあつたのかと感動しました。「これは日本にはない価値観だ。努力して頑張ったら認めてくれる。オリンピックだと一等をとるために相手を蹴っ飛ばしてまで勝とう、ということになりかねないのに、ここには本当に素晴らしい世界があるのだ」と思ったのです。

私は、「このスペシャルオリンピックを日本中に広めよう。そうしたら日本中が思いやりのある国になるだろう」と、あまりにも簡単に思ってしまったのです。そんなに簡単なことではないのですが、そうやって活動を始めました。

全ての人が表彰台に上げられる

そんな大会にするために

その当時、何人かの方にお話しを聞いたから、「スペシャルオリンピック

スのトップは国会議員の人だから、その人にあいさつに行つたほうがいい」と言われました。そこで熊本から東京の議員宿舎まで行きました。そこで、その議員の方が「スペシャルオリンピックはとても良い活動です。ですが、国が知的障害者のスポーツ大会を始めることになったので、これからは皆さんが苦勞する必要はなく、国や県がやってくれます。それに任せておけば良いでしょう」とお話されました。

「今まで、スペシャルオリンピックを運営していた団体は解散しました。細川さんたちがおやりになるなら、好きなようにやれますよ」とも言われました。

熊本から飛行機で東京まで出かけて、結局、「自分たちでどうぞ」ということになってショックでした。熊本に帰ってから「どうしよう」と考えました。

国や県がやる大会は、きっと上手な子が一等賞をとって終わりだろうと考え、「それ以外の子は、相手にされず落とされてしまう」と思いました。

スペシャルオリンピックは全て人にチャンスを与え、全員が表彰台に上げられる。この素敵なオリンピックを日本に作りたいと思ったので

す。

熊本に帰り、自分の想いを話し、皆さんの意見を伺いました。すると、自分たちで「やるう」という熱い思いを持っている方が多くおられました。それで、スペシャルオリンピックスを熊本で始めたのです。

長野でスペシャルオリンピックス

冬季世界大会を開催

その先にも山のように面白い話がたくさんあるのですが、立ち上げから12年後に、私はスペシャルオリンピックスの世界大会を誘致することができました。

誘致については、役員全員に反対されました。しかし、今やらないと、この活動はどんどん弱ってしまうと考えたからです。日本では、誰も知らないからこそ、世界大会を開いて多くの人に応援してもらえる活動にしないと意味がないと思いました。皆さんに迷惑をかけないように、別の組織を作って活動しました。

ラッキーなことに、世界大会直後の長野の方たちと出会うこともでき、長野中が盛り上がる大成功で、スペシャルオリンピックスの冬季大会を開催することが出来ました。

開催までは3、4年かかりましたが、全部が私の責任だから「死んで

もかまわない」と、すべてのエネルギーをつぎ込みました。

その途中に私は、息が止まってしまふ、病気になってしまいました。お医者には「絶対に活動してはいけません。あなたがこれ続けるのなら、いつ死ぬかわかりません」と言われました。それでも、私は「やらないといけないのです」と、薬をいつも携帯して、心臓がきゅつとな

ったときには飲んで頑張りました。日本中を駆け回って、500万人を巻き込んで聖火リレーもやりました。その活動は話し始めるときりがありません。私利私欲はゼロ。全力を尽くしたお陰で、大成功でこの大会を終えることができました。

その後も、スペシャルオリンピックスの活動を続けたたかったので、残念ながら途中で辞めることになりました。それは、私の90歳の父と80歳すぎの母に親孝行をするためでした。それまでは、世界大会誘致の活動があり、全く世話をできなかったためです。活動を続けているときに父や母が死んでしまったら、私は一生後悔するだろうと思いましたが、ですから、その大会から2年後に理事長を辞めさせてもらいました。

今は名誉会長という形で、変わらず日本中を回り、知的障害の方たち

と会っています。皆さんいろいろな素晴らしい能力を持っているのに、日本にはまだ、知的障害者の人は役に立たないと思っている方いるようです。そういう人たちの考え方をひ

っくり返して、彼らが幸せに暮らしていける国にしていきたいために、スポーツ以外の活動で頑張っています。

皆が素晴らしい可能性や能力を持っていると知ってほしい

本当に、誰も体験できないであろう最高に楽しいことや、苦しいこと、あらゆることを体験させていただいた最高の人生だったと思います。もうそろそろ、お呼びがかかる年齢になっているとは思いますが、本当に最高でした。

誰もができないことをやり遂げることができました。こんな幸せな女性はいないと思います。今日、ここに私のとても仲良しの友人がおります。そして、世界中、日本中に本当に素晴らしい友人たちがいて、出会ったことが最高の自慢です。

それも全て、知的障害のある彼らのおかげなのです。彼らにいつも感謝をしながら、思う存分に活動して、幸せになれる、そんな社会を夢見ております。

私が元気なうちには無理かもし

れないな、というのがとても残念です。

皆さまにもぜひ、知的障害の人たちは素晴らしい能力や可能性を持った人たちののだと理解していただきたい。彼らの素晴らしい能力をもっともつと応援していただきたいと思っています。そのことを皆さまにお願いして、私のお話を終わりたいと思います。

本当にありがとうございました。

光本事務局長 細川様ありがとうございました。ここで、スペシャルオリンピックスのビデオを拝見したいと思えます。

ビデオ ナレーション (抜粋)



Special
Olympics
Nippon

知的障害のある人にスポーツを

スペシャルオリンピックスは、知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングを行い、その発表の場である大会を提供している国際的な組織です。

1962年、ケネディ大統領の妹、ユニス・(ケネディ)・シュライバーが自宅の庭を開放してデイキャンプを開催しました。

その目的は知的障害があるがために、まだ一度もスポーツをしたことがない人のためにスポーツが出来る場を提供することでした。

実は彼女の姉、ローズマリーには知的障害があったのです。1968年、ジョセフ・ケネディ・ジュニア財団により組織されたスペシャルオリンピックスは、全米から世界へと広がりました。現在、170以上の国や地域で約400万人のアスリートと100万人のボランティアが活動に参加しています。

日本では1994年、スペシャルオリンピックス日本が設立されました。2012年、公益財団法人の認定を受け、公益財団法人スペシャルオリンピックス日本として活動を開始しました。現在は全国47都道府県に活動が広がり、約8000名のアスリートと1万5000名のボランティアが活動に参加しています。

スペシャルオリンピックスは活動に参加する知的障害者のある人たちをアスリートと呼んでいます。スペシャルオリンピックスが複数形で表されているのは、この名称が大会名のみではなく、地域、日本、世界と年間を通してプログラムが行われていることを意味します。

ナショナルゲームは日ごろのスポーツトレーニングの成果の発表の場として夏季、冬季、4年に一度開催されています。

世界大会は選手団が記録、成績のみならず、世界のアスリートと交流し、競い合う大きな挑戦の場です。2011年、第13回を迎えたアテネでは世界170の国や地域から約9000人の選手団が参加し、それぞれの技能を競い合いました。

スペシャルオリンピックスの競技会、大会にはオリジナルのルールがあります。アスリートが可能な限り、同程度の競技能力で十分に力が発揮できるようにクラス分けを行う「デイヴィジョン」が。順位だけでなく、最後まで競技をやり遂げたことに対し、すべてのアスリートが表彰台に立ち、それぞれの成果を讃える全員表彰があります。

スペシャルオリンピックスの最大の目標は、アスリートたちのさま

ざまな能力を育み、自信と勇気を育むことです。トレーニングや競技で身につけることで、社会参加をする機会を提供することです。

そしてアスリートだけでなく、ボランティアやファミリーが参加し、お互いに理解を深め、ともに生きる社会をつくりまします。

* * *

光本事務局長 ありがとうございます。細川さんの「日本を思いやりの心であふれる国にしたい。そういう想いで活動してきた」というお言葉に、私も心を動かされました。これからもスペシャルオリンピックスを応援して行きたいと思えました。細川さん、本当にありがとうございます。

コーチングセミナー修了式

光本事務局長 本法人では、11月の中旬から12月15日まで、2017年度のコーチングセミナー、研修会を開催しております。今年参加した7カ国8名の研修生の修了式を行いました。と思います。

修了式を始めるにあたりまして、皆様に写真撮影についてお願いがご

ざいます。今回招へいした8名の中に、イスラエルとパレスチナの研修生がおられます。

先週、アメリカのドナルド・トランプ大統領から、エルサレムをイスラエルの首都として認める旨の発言がありました。この発言を受けて現地では、大変に微妙な情勢になっており、紛争的な事態も発生している状況です。

本法人では、イスラエルとパレスチナの方を一枚の写真に収めるということを、出来るだけ控えております。その理由は、パレスチナの方にとり、イスラエルの方と一緒に写真がホームページなどインターネットで公開されると、トラブルに巻き込まれる可能性が高いと考えられるからです。我々が知る限りのことではあります。イスラエル人と仲良くしたくないか」と、ご本人だけでなくご家族までが非難され、最悪の場合はスパイ行為を疑われて投獄されることもあると聞いております。

セミナーの期間、私どもで記念写真を撮る際にも、お二人を別々に2種類ずつ撮影してまいりました。

つきましては、本日の会場でもお写真をお撮りになる方がおられるかと思いますが、その点にご理解とご協力をいただきますよう、よろしく

お願いを申し上げます。
 それでは、修了式を始めたいと思
 います。はじめに、この一ヶ月間、
 指導してまいりました、本法人の光
 本健次国際担当師範より、総括をさ
 せていただきます。

光本健次師範 総括

皆様こんばんは。本法人で国際担
 当の師範を務めております光本健次
 と申します。多忙な山下理事長に代
 わりまして、本年もロシアや中国を
 含め、8カ国ほどで指導をしてまい
 りました。今回の研修生たちが来日
 した日に、私も別の役目を終えて成
 田に帰国する、といったスケジュー
 ルで日々を過ごしております。



今回の研修に参加した8名は、い
 ずれも若いコーチ達ですが、東海大
 学湘南キャンパスの道場などで一ヶ
 月、本当に一所懸命に学んでおりま

した。

このコーチングセミナーは、柔道
 の技術的な指導だけではなく、様々
 な角度からコーチングについて勉強
 していただくことが目的です。そこ
 で今回も、東海大学体育学部の先生
 方にも協力をいただき、怪我をした
 ときのリハビリテーション、テーピ
 ング、スポーツマッサージ、選手の
 メンタルトレーニングといった、多
 方面の知識や技能を学んでいただき
 ました。

また、地域活動として、朝飛道場
 や地域の中学校なども訪問し、特別
 支援学校にも足を運びました。先ほ
 どの細川佳代子さんのご講演内容と
 重なりませんが、研修生の皆さんにも
 日本の障害者支援の現状や取り組み
 を学んでもらったというわけです。

山下理事長が南京と青島に作った
 友好柔道館は、非常に良い形で運営
 され、成功しております。私は中国
 でも障害者による柔道を実践したい
 と考えており、中国からの研修生が
 母国でもこういう活動をやってみた
 いと言ってくれたことを非常に嬉し
 く思いました。

さらに、日本文化に触れてもら
 うと、剣道や居合道に挑戦してもら
 い、京都や広島にも出かけました。
 世界は決して平和ではございません

ん。私自身も、イスラエルとパレス
 チナには何度か足を運びました。現
 地を体感した者として、今回参加さ
 れたお二人が、一緒に過ごしている
 こと自体が、いかに素晴らしいこと
 であるかを実感している次第です。
 柔道を通して、この方々が友情を育
 み、それが世界平和への貢献に繋が
 ってくればと、そして私どものス
 ローガンである「柔道・友情・平和」
 を体現してくれたらと願っております。

光本事務局長 研修生たちが、皆様
 への感謝の思いを込め、それぞれ自
 分でスピーチを作りました。それで
 は、お願いいたします。

研修生スピーチ

Zaur Babayev

アゼルバイジャン



こんばんは、私は、アゼルバイジ
 ヤンから来ましたザウルです。アゼ
 ルバイジャンから、このような素晴
 らしいセミナーに参加させて頂いた
 ことに、心からお礼申し上げます。

私たちは、柔道だけではなく日本
 人の心や文化について勉強しました。
 日本人は平和と友情を愛する国民だ
 と思えました。来年(2018年)
 には、我が国のバクーで世界選手権
 があります。ぜひ、バクーに来て下
 さい。可能ならば、また、このセミ
 ナーに参加したいと思います。皆様
 の笑顔と幸せが続きますようお願い
 します。山下先生、光本先生、恵子
 さん、浩子さん、円さん、浩太郎、
 本当にありがとうございます。

Hana Benca

ボスニア・ヘルツェゴビナ



こんばんは、私はヘルツェゴビナ
 から来ましたハナです。よろしくお

願います。

このコーチングセミナーは、私の人生にとって、すごく素晴らしい経験になりました。新しい友達と出会い、皆と一緒に私の柔道のコーチングをトレーニング出来ました。色々なコーチングの方法を知ることが出来ました。この経験は柔道のコーチングだけでなく、私の人生の貴重な時間となりました。柔道、日本、皆様、本当にありがとうございました。

Oday Ali Mahmoud Thuib

パレスチナ



こんにちは。私は、パレスチナから来ましたオデイです。柔道教育ソリダリティーの皆様、山下先生にこのような機会をいただいたことに、心から感謝します。

今回たくさんの先生からご指導をいただきました。特に、光本先生からは多くのことを学びました。光

本先生は、3年前にパレスチナに来てご指導いただきました。また今回の研修を通して、たくさんの素晴らしい日本人に会うことができました。

広島や京都での研修も大変素晴らしいものでした。特に広島では、全て破壊されてから素晴らしい発展を遂げた市内を見て感動しました。日本は世界の国々を多く支援しています。日本人はいつも笑顔で平和に暮らしています。それは素晴らしいと思います。皆さん本当にありがとうございました。

Carlos Dionisio Sandoval Yaca

Diez

ボリビア



こんばんは。私はカルロスです。

ボリビア人です。このコーチングセミナーは、私の人生を変えるものでした。たくさんのコーチたちと出会い、色々な違いを見つけました。

しかし、文化が違ってても皆が情熱を持ち、柔道が好きで、これは皆同じでした。考え方とトレーニングを工夫するだけで、どれだけコーチングが変えられるか分かりました。

様々な日本の素晴らしい柔道家に、直接指導してもらえて、とても嬉しかったです。憧れの柔道家にも会えました。平和と友情、私たちは、ここで友情を手に入れました。コーチングセミナーの目的をとっても楽しみながら達成出来てすごく嬉しく思います。最後に、この柔道教育ソリダリティーを支援して下さっている皆様、本当にありがとうございました。

Qiu Ziyun

中国・日中友好南京柔道館



皆さんこんにちは。私の名前はチ

ュー・ジーイエンです。中日友好南京柔道館から来ました。このような研修の機会を与えて下さった柔道教育ソリダリティーの皆様にとっても感

謝しています。山下泰裕先生の南京柔道館に対するご指導とご支援にもとても感謝しております。日本では毎日感謝の気持ちを忘れずに過ごしています。

恵子さん、浩子さん、佐々木さん、鈴木さん本当にありがとうございました！お陰様で言葉の不自由な私ですが、無事セミナーを修了することができました。

光本先生は本当に凄いです。言葉だけでなく、実際にお手本を見せて下さいます。いつも真剣に、妥協することなく、細かく教えて下さいます。お会い出来て本当に光栄でした。

柔道の文化を若い世代に伝える事は、品格や道徳を育成することだと思います。長い道のりだと思いますが、日本で学んだことを中国に持ち帰りたいです。特に光本先生や東京都立青鳥特別支援学校の先生をお手本に、柔道の普及に貢献したいと思います。ありがとうございました。

Moshe Havusha

イスラエル



こんばんは。イスラエルから来ましたモーシエです。コーチングセミナーが終わります。私は日本に来ることが出来る嬉しいです。伝統的な美しい場所に行き、たくさんの方を学びました。私にとり、特別な場所は、嘉納治五郎先生が柔道を始めた永昌寺でした。

また、世界中からコーチたちが集まったことは、とても嬉しい事でした。日本で皆と友達になることが出来ました。それは、貴重で嬉しい事でした。日本で彼と友達になることが出来ました。大変それは素晴らしいことです。

最後に、柔道教育ソリダリティーの皆様、このような機会をいただき、心から感謝を申し上げます。日本で

私のコーチとしてのテクニクも向上しました。イスラエルの子どもたちに教えたいと思います。山下先生、光本先生、NPOの事務局の皆さんに心からお礼を申し上げます。

Sergey Sergeev
ロシア



皆様こんにちは！ 私はロシアから来ましたセルゲイです。ここにいることを嬉しく思います。そして、このセミナーを助けてくれた皆様、ありがとうございます。

東海大学では、たくさんの方とやアスリートと話しました。そして、若い柔道家達がどんな生活をしているかを勉強できました。日本の柔道がなぜ強いのか少し分かりました。一つ目は、日本が一本をとる柔道を徹底していることです。

二つ目は、たくさんの方が技の研究をしていることです。

三つ目は、たくさんの方の乱取りをしていることです。

四つ目は、日本の文化と考え方で柔道をしていることです。

山下先生、光本先生、恵子さん、浩子さん、浩太郎、このセミナーに参加するチャンスを与えて下さった皆様に感謝申し上げます。たくさんの方達を作ることが出来ました。これからはずっと友達でいたいと思います。また会いましょう！ 有り難うございました。

Marko Zrimsek
ボスニア・ヘルツェゴビナ



こんばんは。私はボスニア・ヘルツェゴビナから来ましたマルコです。まず、皆さんにたくさんのご支援をいただいた事に感謝します。このコーチングセミナーは素晴らしい旅でした。日本の文化だけでなく、日本人のライフスタイルや伝統を見聞す

ることが出来て光栄でした。一カ月間のセミナーでしたが、それ以上の事を学ぶ事が出来ました。また、この仲間と会いたいと思います。

私がいる柔道クラブ「Hercegovac Mostar」は54年の伝統があります。これからも、その成長を柔道教育ソリダリティーの皆様にお伝えしたいと思います。すべての柔道家の見本である山下先生、新しい視点で柔道を教えて下さった光本先生、いつも私たちを支えて下さった恵子さんと浩子さん、本当の友達になってくれた浩太郎、そして Carlos, Qudriyan, Moshe, Oday, Hana, Zaur and Sergey ありがとうございます。これからの僕たちの友情の始まりです。皆さんありがとうございます。またお会いしましょう。

光本師範 最後に、先ほどから皆のスピーチに浩太郎、浩太郎と名前が呼ばれている佐々木浩太郎を紹介したいと思います。この一ヶ月間、私と共にアシスタントとしてセミナーを支えてくれました。彼は学生時代、全柔連が実施している海外学生ボランティアで、約10日間ブータンに派遣された経験もあります。佐々木浩太郎君です。

佐々木浩太郎



こんにちは。島根県から来ました、佐々木浩太郎と申します。柔道教育ソリダリティーのコーチングセミナーにご支援いただいた皆様に感謝を申し上げます。皆様のお陰で、光本先生のアシスタントとしてお手伝いをしながら、私も勉強することが出来ました。

コーチングセミナーでは、8名の研修生たちが主役ですが、私も生活をともにしながら交流を深め、一緒に学ぶことができました。本当に皆様方のお陰だと思っています。ありがとうございます。

光本事務局長 ありがとうございます。今年、イスラエル、パレスチナのコーチに加えて、ボスニア・ヘルツェゴビナから、イスラム教の方とクリスマスチャンの方、お一人

ずつを招けました。約20年前から紛争が絶えない地域ですが、JICAで今、スポーツを通じた融和政策活動を展開しております。本法人もその活動に賛同いたしまして、2017年度は、お一人ずつお呼びしました。

こうして一ヶ月が経過しましたが、本当に毎日が異文化交流の連続でございました。一ヶ月が過ぎ、本当に多くの友情の輪が芽生えたと実感しております。本当に皆、よく頑張ったと思います。それではここで修了証書を差し上げたいと思います。山下理事長、どうぞよろしくお願いたします。

山下泰裕理事長 修了証書授与



修了証書

本法人が実施した講習を、2017年11月16日から12月15日までの

期間履修し、柔道の精神をよく理解し、修行に励み、心技体の充実に努力され、大きな成果をあげられました。よってここに、所定の修業課程を修了したことを証します。
2017年12月15日

柔道教育ソリダリティー
理事長 山下泰裕
光本健次

柔道教育ソリダリティーのバックナンバー講演録をご要望の方は、事務局0463(58)1211(内線3524)までご連絡下さい。講演録は、無料で配布しております。また、ホームページからもダウンロードすることが出来ます。
【<http://npo-jks.jp>】

* * *